

水無瀬三吟百韻
湯山三吟百韻

本文と索引

附 連歌新式追加并新式今案等

木村 晟編

笠間索引叢刊 92

連歌新式追加并新式今案等(江戸中期頃写本)
原本收藏 近思文庫 代表 山内潤三

序

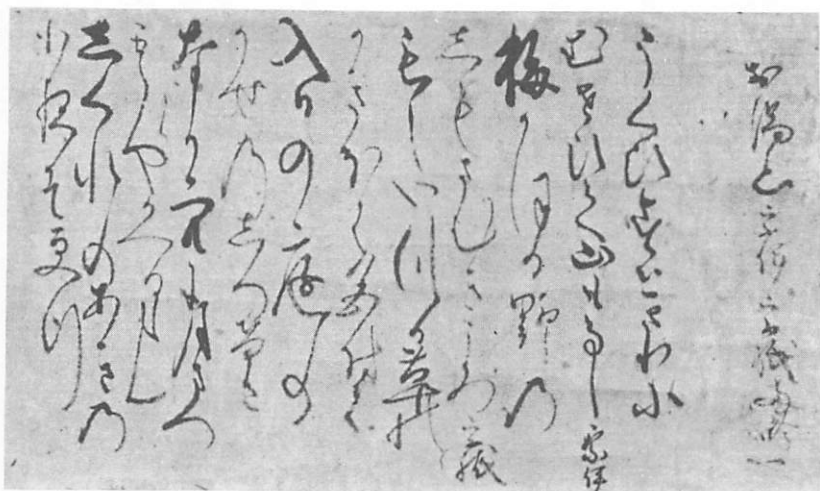
人は自らの言語をもつて話し、思惟し、行動するとともに、世にある芸術文化——殊に文学——によつて、その精神の生長と深化をはかる。

古来、幾多の書物が編まれ、数多くの刊行がなされてきた。また、その研究も日に日を重ねて進展し、知識の宝庫は際限なく拡がって行つた。

これらの貴重な古典の数々とその探究は、哲学・文学・宗教の各方面に美と愛と知恵の光明を投げ与へ、その時代社会の血となり肉となつてきたのである。

しかし、時間を越えて永遠の生命力に満ちあふれる不朽の書——「古典」——が、常住坐臥、万人の手に触れ、その目と心を楽しませるといふことは、一つの理想であるが、現実にはむしろ望み難い。星の光ほどの微かな照度を持つ稀覯書も、篋底の一隅に香しく芳馨を放つ未刊の典籍も、それが世に公けにされてはじめて、その真価があらはれ、道を求める士の友ともなるのである。

霧深き奥山路にも人知れず常磐木は生ひ茂り、錦織りなす尾上の小道にも落葉は朽つるの譬へ、有名無名を問ふことなく、世のため、学のため、些かの敷き石にもなればとて、かく志し、ここに『水無瀬三吟百韻・湯山三吟百韻附連歌新式』の刊行をなす。



宗伊湯山両吟六句 杉原宗伊各自筆
宗祇 版尾宗祇

懐紙半切。文明14年2月、宗祇が師の杉原(伊賀守賢盛)宗伊に伴はれて、湯山(有馬温泉)に遊んだ時、相唱和した『湯山両吟百韻』の巻頭の六句。第1行「於湯山宗伊宗祇両吟也」は宗祇、次の2行は宗伊の自筆。以下の10行は全て宗祇の真蹟である。

総目次

序

山内潤三

本文篇

凡例

水無瀬三吟百韻

湯山三吟百韻

索引篇

凡例

水無瀬三吟百韻

湯山三吟百韻

附載

連歌新式追加并新式今案等

影印本文（寛政十年写本）

翻字本文

凡例

解題

149

136

135

79

44

15

14

10

7

6

本書の作業分担

- 一 本文篇・索引篇 木村セツ
- 二 附載「連歌新式追加并新式今案等」影印監修 山内潤三
- 三 「連歌新式追加并新式今案等」翻字・解題 木村 晟

水無瀬三吟百韻 本文と索引
湯山三吟百韻

附 連歌新式追加#新式今案等

●笠間索引叢刊 92

平成2年3月31日 初版発行

定価 4,120 円(本体 4,000 円)

検印
省略

◎編者 木村 晟

発行者 池田つや子

発行所 有限会社 笠間書院

〒101 東京都千代田区猿樂町 2-2-5

☎ 03-295-1331(代) 振替東京 1-56002

3381-852092-0924

三美印刷・手塚製本所
(本文用紙：中性紙使用)